

なぜなに やまもり 山や森についてもっと知ろう!

人工林はどんな一生を歩むのか?

人工林とは、人が苗から造り上げた森林で、身近なものではスギ林などがあります。一見すると何の変化もないように見える人工林ですが、立派な森林になるまでに様々な手入れをし、管理していく必要があります。今回はスギ林を例に人工林の一生を紹介します。

1 地拵え・植栽
木が伐られて更地になった山などで、苗が育つよう枝条を整理します(地拵え)。その後、高さ30cmほどの苗を1haに2~3,000本(約2m間隔)の密度で植えます。近年は花粉の少ないスギも植えられています。

2 下刈り
植えられたスギは、他の草や木などとの生存競争に巻き込まれます。植栽から数年の間は、スギの成長を邪魔する草や木などを刈り払い、スギの成長を促します。

3 除伐・間伐
スギ林は、大きくなると混み合うようになり、そのままにして手入れが遅れると太いしっかりしたスギになられません。成長の悪いスギなどは除伐し、混み合っているスギは間伐して、強いスギを育てます。

4 主伐
スギは植栽から60年ほどたつと、高さ20~30mに成長します。成長したスギを全て伐り(主伐)、地拵え・植栽して、森を若返らせます。伐られたスギは住宅の構造材など、さまざまな用途に使われます。

人工林は多くの過程を経て大きくなります。
あなたの身近にある森林にも、様々な歴史が眠っているかもしれません。

*山形県では「やまがた緑環境税」を活用して、手入れの遅れた森林を整備しています。

企業だって森づくり♪

(株)モンテディオ山形 編

(株)モンテディオ山形
事業部事業チーム

荒井 薫さん・藤田 祥仁さん

■森づくり×サッカーのコラボって新鮮!

モンテディオ山形は皆さんご存知のサッカーチームだと思いますが、森づくり活動を、サッカー選手の卵である、アカデミーの小学生たちと天童高原で行っています。なぜモンテディオ山形が森づくり始めたのかと言いますと、ホームである山形県のために出来るこをしたい、という思いがスタートでした。調べてみると、山形県の森林面積は国土の7割もあり、地域の暮らしは森林とともに育まれてきたとのこと。それならば、森林を大切にすることが、地域貢献に結びつくのではないかと考えました。



枯れてしまった場所に、新しく苗木を植えるジュニアたち



サクラへの施肥 固形肥料を根元に埋める

■今後の抱負をお聞かせください

将来この場所でお花見をするのが目標ですから、今はスタート地点に立ったばかりです。今後はチムに関わる方々や地域の方々と協働で、この活動を広めていきたいと思います。

■子どもたちに伝えたい思いとは?

近年では地球温暖化の影響が身近に迫り、学校でもSDGsに関する授業があるなど、子どもたちの自然環境への意識は高いようです。子どもたちにとって、学校で習うことの実践ができる良い機会になっているのではと思います。この森づくり活動を通じて、自然が身近にある大切さを感じてほしいと思います。



どんぐりの苗木づくり(森のホームステイ)

肥料をあげる作業を行いました。その他、残念ながら枯れてしまつたサクラもあったので、空いた場所に新しく植樹もしました。

■子どもの反応は?

森づくり活動は初めての子どもたちですから、最初は何をしに来たのかわからず、天童高原の広い草原を見てうずうずしたのか、「走りたい!」と言つてはしゃいでいる感じでした。みんな、普段フィールドを走り回っている子たちですかね。サッカーしに来たと思いませんでるな、みたいな(笑)。でも、目の前にあるサクラは、先輩たちが植えた木であることや、それを育てるための活動をしに来たことを説明すると、真剣な表情になり、専門の方の言うことを聞いて進んで作業に取り組んでいました。

■若いのに立派ですね

基本的に体育会系ですから、「先輩たちが」と言えれば、ビシッとします(笑)。でも、やっぱり遊びや楽しみの要素も大事ですから、今年は絵本の読み聞かせ&勝ち残り形式のクイズや、森のホームステイという、どんぐりの苗木を家で育てる活動も行いました。

★やまがた絆の森づくり推進事業★

企業などと森林所有者と県との三者協定による森づくり活動。令和4年1月末現在、38企業・団体、36箇所で活動を展開中。

読者
プレゼント

抽選で(株)モンテディオ山形から「モンテディオ山形試合観戦チケット」を10名様にプレゼント。詳しくはP.11をご覧ください。